

仙人通信 99 根本山(1199m)・熊鷹山(1168m)

根本山は足尾山地の西側・桐生市に流れる桐生川の源流に位置し、石灰岩とチャートや粘板岩から成るペルム紀や三畳紀の地層の山である。

桐生川に沿って梅田湖・石鴨村落を経て石鴨林道のゲート近くの駐車広場に、車を置いて、根本山・十二山・熊鷹山を廻るコースである。林道はそのままUターンして更に上るが、登山道はゲートから川に沿った林道を進む。10分程で不死熊橋手前の登山コースガイド板の先に沢コースのロープが見える。今日の中尾根のコースは、林道をそのまま進む。赤紫のミツバ躑躅は既に満開を過ぎて、林道に花卉が舞う。陽だまりでは、ムラサキケンマやキジムシロの花が可愛い。橋から300m位に中尾根を示す小さな標示板があり、沢沿いの林道と別れて進む。標示板から200m程進むと右手に根本山への道標がある。かなり急登な檜林の中の九十九折りを30分程進むと、小さな石祠のある尾根に出る。太陽の光が眩しく、気分も晴れ晴れする。濃い紫のミツバ躑躅が萌黄色の葉とバランスが取れ登山道を染めてくれる。足元では濃い緑の葉脈のフモトスミレが米粒程の小さな花を付け健気だ。尾根道の南側は檜の植林で薄暗いが、北側は見事なミツバ躑躅の回廊である。高度が上がるに従い、躑躅の花の穂先が茶色の花胞に包まれ、開花寸前である。それに代り、よりピンクのアカヤシオの花が目立ち出す。芽吹き前のリョウブ等の落葉樹で、青空にヤシオのピンクが映える。遠くには皇海や白根山も臨める。ウキウキしながらの尾根歩きだ。歩き初めてから2時間足らずで根本沢からのコースと合流し根本山の山頂である。連休明けの月曜日でもあり、訪れる人もなく、ホーホーと鳴くコノハズクやドラムを叩く啄木鳥そして耳元でお喋りするヤマゲラが今日の友だ。山頂のシロヤシオが有名であるが、まだ蕾である。15分程急な下りを過ぎると小さなピークがあり、根本山を見上げる様に神社が祭られ、嘗ての山岳信仰が伺える。十二山山頂にも小さな石の祠がある。小さなピークが12程あるのだろうか、祭られた神に由来する山名であろうか？・・・

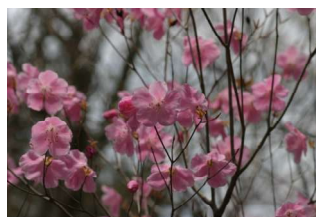
根本山から熊鷹山の尾根は、栃木と群馬の県境で、群馬側が檜林に対して栃木側は芽吹き前の落葉樹やカラマツで明るい。膝丈の笹の平坦な尾根路では、マイズルソウが小さな花芽を準備中だ。風も無く静かで一人占め出来た嬉しさが込み上げる。十二山から30分程で熊鷹山の山頂だ。山頂には2等三角点と2人ほど昇れる展望台がある。地図とコンパスを広げて周囲の山名を再確認だ。赤城・袈裟丸・皇海・白根・男体山と北側半分は霞みながらも確認できた。南半分はガスで残念ながら望めない。皇海の手前には厚いレンズ雲が3個だ。明日は雨か？。山の神の鳥居を抜け、小戸への分岐を過ぎてから20分程急降下して、朝の林道の不死熊橋へ約1時間掛けて戻る。林道は震災による崖崩れが生々しいが、陽だまりでは、シロボウエンコグサ・ヤマエンコグサ・ムラサキケマン・ミヤマキケマン・キジムシロやタチツボ・フモト・アカネ・エイザンスミレやフスマ等が春を告げる。駐車場では白いヒロハコンロンソウが車を見送ってくれた。そうそう石鴨の垂れ桜も見事でした。ノンビリ歩いた5時間の山旅でした。

(h23.5.9)

ミツバツツジ



アカヤシオ



フモトスミレ

